

31. 亀岳周辺の火山砕せつ岩

地 域	西彼杵郡西彼町亀岳バス停—小干—宮浦
交 通	長崎バス 西彼内海線, 亀岳下車
地形図	大村・早岐 (1/50,000)

亀岳バス停で下車し、郵便局の角を北に曲ると、目の前に大明寺川が流れている。橋を渡ると、図1の①で板状節理の発達した無斑晶質玄武岩が見られる。顕微鏡で見ると、かんらん石の斑晶が見られ、石基は斜長石が拍子木状をしており、不透明の黒点の磁鉄鉱が見られる。神社の前で道が3方向に分かれており、真中の道を登っていく。この道は大村(1/50,000)地形図には記載していない。県立西彼農高のグランドに入ると東側の崖②で黒色片岩が見られ、一部には幅約10cmの間で片理が坊主頭のように曲っている微褶曲も見られる。坂をそのまま登ると③でれき岩が見られる。下部は約1m大の黒色片岩の角れきが多く、その間には5~10cm大の石英、流紋岩および玄武岩の角れきを含み、基質は暗黒色をしている。上部は赤褐色で流紋岩のれきが多い。

道路南側の家の入口④では絹雲母を多量に含んだ凝灰質砂岩とシルト岩の互層が見られる。その走向はN40°E、傾斜は16°NWで良く成層していて、家の裏に続いている。家の反対側に細い道があり町営の配水所がある。その上の⑤に流紋岩質凝灰岩れき岩が見られる。黒色片岩、玄武岩、そして少量の石英および流紋岩の2cm大の円れきを含み、基質は凝灰岩質である。その間に④の絹雲母を含んだ砂岩が混じっている。そのまま細い道を登ると絹雲母を含んだ砂岩が続き⑥で④と同質のものがあらわれ、走向東西、傾斜8°Nとなる。④、⑤、⑥は湖成層の一部で小さな湖にたい積したもの

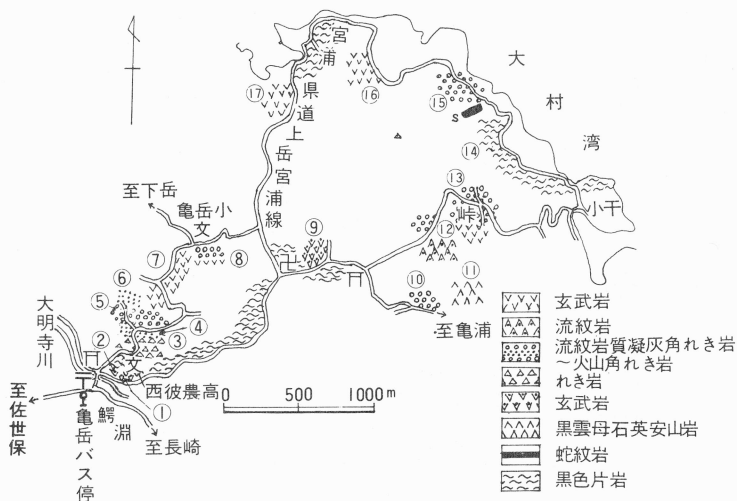


図1. 西彼町亀岳周辺のルートマップ

と考えられる。

細い道を引き返し、もとの道を大きく曲ると⑦の採石場に来る。かんらん石玄武岩を採石しており、肉眼でもアメ色のかんらん石を確認出来、大きいになると約3mm大のかんらん石も見つかる。

点在する玄武岩の風化露頭を道路南側の崖に見ながら坂を下っていくと亀岳小学校前に来る。学校の中には立派な岩石園があり、いつも生徒の目に触れるようになっている。先生方のご苦勞の程がしのばれる。校門前⑧に高さ約11mの露頭があり、流紋岩質凝灰岩ないし凝灰角れき岩の上を不整合に玄武岩がおおっているのが見られる。この露頭の地質柱状図を図2に示す。

県道に出て300m程南にもどると、道の三き路の間にこんもりとした森があり、その中にお寺がある。巡検する時の格好の昼食場所である。

⑨で板状節理の良く発達した玄武岩が見られ、①と同じ層準のものと考えられる。反対側は田んぼでその側壁の崖に新鮮な黒色片岩

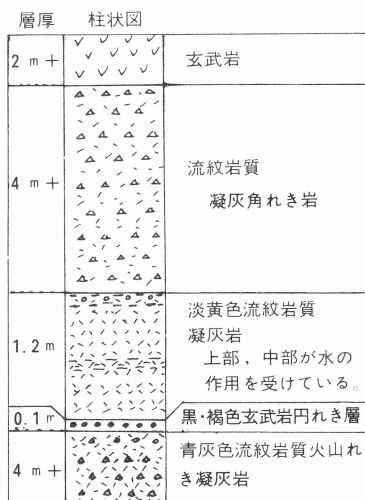


図2 露頭⑧の地質柱状図

が見られる。小干方面へ行くと⑫で流理構造の発達した白色の流紋岩が見られ、標本採集に適している。その反対側の道路下に戦時中避難に使用した防空ごうがあり、その中で流紋岩質凝灰角れきが見られる。流紋岩質の火山灰、火山れきを多量に噴き上げた後、流紋岩の溶岩を流した一連の火山活動が行なわれた事がしのばれる。

峠の切通しの両側⑬で流紋岩、輝石安山岩のれきを含む流紋岩質凝灰角れき岩が見られる。所々に流紋岩の上位に分布する玄武岩溶岩層のものと思われる50cm大の新鮮な玄武岩の転石がころがっている。北側に広々とした田んぼを見ながら坂を登り峠を越すと大村湾が目の前に広がる。眼下に小干の突端が見え頂上に展望台がある。その海岸周辺に家が密集している。今迄のルートの様式・断面図を図3に示す。

東側に大村を見ながら小干より宮浦に向かって海岸ぞいの道を歩くと西側の崖に黒色片岩の露頭が続くが、その間に緑色の結晶片岩をはさんでいる。⑭で緑灰色ないし暗緑灰色の蛇紋岩の貫入岩体が

が見られ、黒っぽい所を指でなでてみると、鉛筆の芯の粉が手についた時と同じようになり石墨を含んでいることがわかる。きらきら白く光るのは絹雲母である。黒色片岩の中に石英が脈状に入っている。

小干と亀浦方面への分かれ道に神社があり、北方一面田んぼで周囲が山にかこまれて盆地状になっている。亀浦の方に行くと⑩で流紋岩質火山角れき岩、⑪で走向N 60°Wで垂直な傾斜を持つ流理構造の発達した黒雲母石英安山岩

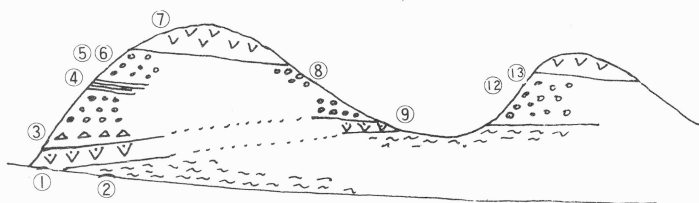


図3 亀岳一小干間の模式断面図（記号は図1に同じ）(①～⑬は露頭番号)

見られる。よく観察すると周囲に滑石や石綿を見つけることができる。滑石は、蛇紋岩が花こう岩の貫入のため熱水変質作用を受けて生成する場合と、動力変成作用を受けて生成する場合があるが、ここのは後者のものであろう。黒色片岩のような SiO_2 に富んだ片岩中にある蛇紋岩に多く発達する。石綿は蛇紋岩の中の断層または亀裂にそってしみ込んだ熱水の作用で、すき間にあった滑石が再結晶したものである。

⑮で多量の流紋岩、玄武岩のれきを含んだ流紋岩質凝灰角れき岩が見られる。⑧と対比されるものであろう。大村湾の向うに大村の火力発電所が見え、天気の良い日は多良山系の眺めがすばらしい。⑯付近で道路のかたわらに70～80cm大の無斑晶質玄武岩の転石がころがっている。これは周囲の畑を整地する時たくさん出てきたものだそうで、玄武岩の溶岩が風化したとき中心に残った核であろう。畑の土も特徴のある赤褐色の玄武岩の風化土である。

宮浦に降りて、半農半漁の小さな部落に入る。宮浦線バス道路ぞいに亀岳バス停に向って行くと西側の崖に黒色片岩が連続して露出する。⑰で黒色片岩と黒色片岩のれきが垂直に接しているのが見られる。両者の関係は断層であろう。その40m先から民家の石垣に下岳一円をおおっている玄武岩溶岩層のものと思われる玄武岩が使われている。

(小田忠昭)